

逐月刊行

卷二

西洋雜誌

江戸開物社

定便貳分

17
特 82
2



187
82
2

西洋雜誌卷二

楊江學人集刻

○オランダ國王の世系

此書卷首より如く各國王公の世系并に盛衰の略を一卷に一國ヲ扱ひ。但しオランダ。フランス。イギリスの三ヶ國は事蹟を西洋事情 友人福澤諭吉著 去年上本より略見し。アメリカ合衆國の略史ハ。同書并に海國圖志。聯



邦志略。ワシントン軍記等。既子板行の書多
くれば。これを略し。毎室其系譜のこぼ
り。近日西洋王代一覽といふ書刊行の
べし。看者ゆゑを待て参考を備ふべし。

井ルレム第一王

父井ルレムオ六の代ちがへ。オランニ公
の爵ししと和蘭合衆十七州の
長より。いまご王位に外すものなり。此王
安永元年子生也。文化三年父の位を

嗣ぎて。井ルレムオ七と号し。フランス帝ナホ
レオン戦争の時。軍功ありしに依り。文化
十二年諸國會盟の後。爵を進し。和蘭
國王と号す。改めて井ルレム第一世と号し。天
保十一年位を譲り。弘化元年没し。

寛政四年生。天保十一年即位。

井ルレムオ二王

嘉永二年没

死アンナ。ホウロウナ
オロシヤ帝。ポウルオ一の女

井ルレムオオ三王

副名アレキサンドル、ポウル、フレデ

リキ、ロデウエイキ 文保十四年

生。嘉永二年即位。すふちも今れ

和榮王よりオランエ、ナスサウのフリンス爵、

リュクセムブルグの大公爵、リムブルグは

公爵を兼ね

妃ソヒヤ

ウルトムブルグ王井ルレムの女

天保十年一オランダに嫁す

井ルレムフレデリキ、ヘンデリキ

文政三年生。リウテナント

アトミラールに任じ。且

キセムブルグ國の吏務を摂理す

夫人

アメリカヤ

サクセン空イマル大公の女

女

井ルレム大マリヤ、ソヒヤ、ロギヤ

文政七年生。天保十三年サクセンウエイ

マル、エイセナック大公カール、アレキサンドル

子嫁き

世子

井ルレム、ニコラース

天保十一年生。今リウテナント
アドミラルル、リウテナント、セチラル

騎軍監督を兼ね

井ルレム、アレキサシドル

嘉永四年生。グレナチール
及マーゲル隊の第二リウ

テナントあり

井ルレム、フレデリキ、カール

寛政九年生。陸軍元帥

フー。プロイス國皇

ストハーレンの歩軍レジメント第二隊持を

兼ね

夫人

プロイスの先王フレデリキ、井ルレム

ロウ井サ

オエの女なり

女
マリ、アテナ

文化七年生。プロイスの公子
フレデリキ、アルベルト子嫁き

女
口ウ并サ
文政十一年一室嘉永三年ズエーデン
國王カールル第十九子嫁に

女
ナリヤ
天保十二年生

○兵士食量の定則

和蘭^ノ兵士^ノ毎日^ノ食料^ノ
常量^ノ左^ノの如し。

麩包 一斤の四分之三 我二百匁 毎日

但し麩包の代りにビスコイトを食する
ときハ一日に半斤 百三十匁なり

牛肉 生^ナま^ク一斤四分之三 半月 我六十七匁

同 塩漬 目方同断 一月の内 七日

猪肉 燻^イし^ウる^メの 一斤の八分の一 四日 我三十三匁

同 塩漬 目方同断 四日

塩 一斤の六十分一ツ 我四匁 毎日

米 一斤の十六分一ツ 我十七匁 半月

担し生の牛肉は添く渡り

精シラげカラるス 燕麦 目方同断 七日

但し牛の塩漬と同日は渡す

青きシド豆 一斤の十一分一ツ 我廿四匁 八日

但し豚の肉と同日は渡り

ゼ子フル酒 一カンの廿分一ツ 毎日

我五合五勺を廿人分るなり

右の外

酢 一カンの廿五分一 五合五勺を廿五人分るなり

青菜 胡椒 炭薪 蠟燭 サボン

等を渡り

エイド、メモアルといふ書 フランス人著述 みま。 右の外尚

左の品をも渡はべしと云へり

葱 子ギ 一人ニ二本ヲ 一ヶ月の内 十三日或ハ十四日

干鰯 ヒダラ

目方 一斤の八分一ツ
三十三匁

一ヶ月ニ 二日

酪 ボイトル

又ハ 豚脂 ブタノアブラ

目方 一斤〇三
我八匁ツ

毎日

乾酪 カイズ
チエーゾ

目方 同

同

芥子 カラシ

目方 〇斤〇〇二
我五匁余

同

葡萄酒

半カン 我二合八匁ツ

同

但し上等士官の

ビール酒

半カンツ

同

飲水

三カン、八五ツ
我二升一合余

同

馬鈴薯 ジャガタライモ
ゴシヨイモ

新あれハ 一コップ、六 我九合
三匁
古々れハ ニコップ 我一升
一合
甚古々れハ ニコップ、三 我一升
三合并

同

薑薯根 又ハ

胡蘿蔔根 ニシキ
ジンシ

〇コップ、八五 我四合
七匁

一ヶ月ニ 五日

菜漬 ナツケ

一斤の四分一 六十七
匁

一ヶ月ニ 九日

又英吉利人ペレイラの書。日耳曼列國連合
隊の兵士の給する食量を載せしむハ左の如し

麩包 一斤。二十一匁 我二百七

肉并ニ脂肪合々。斤一六 我四十三匁

馬鈴薯并ニ豌豆蚕豆 合々。斤六 我百六十匁

青菜。蔥の類合々。斤一七五 我四十七匁

ビール 一カンの四分一 我一合四匁

焼酒 一カンの十分一 我二匁八オウ

右の外各國食料の渡し方。少しの異同も
有れども。大抵推して知るべし。但し土地の氣
候と産物の多寡に依り。自然に異同無き豈
能くん。極北寒國よりハ多く肉を食せざれば
寒ふ堪へざり。人身虚弱となり。赤道に近き
熱國より肉を過食せれば。必は悪き病を發
す。故に寒國よりハ専ら肉を食ふべく。熱國

よてハ穀菜蔬の類を宜しとす。只日本唐
國。エウロパ中部の諸國。北アメリカ合衆國等
の如き。寒暖中和の地に於てハ。穀肉共ニ併
せ食し可なり

麩包パンと小麦粉の上品ありのものを製し
をよしとす。凶年或は他の故障ありて。小
麦粉拂底なるときハ。燕麥。大麥。米。蕎麥等
の粉を交へて製する事もある。何れも

小麦の佳品に及ぶざる可なり

小麦二百斤を挽き。糠三十斤。粉百六十八斤
を得。減耗ヘリメ凡二斤なり。此粉より麩包パンを製す
まバ。二百六十二斤半とあり。ビスコイトを焼け
ハ。百六十八斤七五とありと云ふ。大略粉一斤
より麩包ハ一斤半。ビスコイトハ一斤を得るな
り

猪肉を生きて兵士に渡し夏稀なり。又猶太ユード

教の宗門に入る者ハ。豕を食せん。故子毎
日牛肉むしりを與ふるあり

食物の人身を養ふ力いづれも一樣なり。其比例大凡左の如し。

麩包一斤き馬鈴薯二斤半子同ドク
麩包三百六十七匁と肉百五十三匁と合されば

馬鈴薯一貫四百八十六匁子同ドク
米。豌豆。蚕豆等ハ一斤よりいづれも馬鈴薯

三斤半許あり。

○化學沿革の話 友人宇都宮
鑛之進譯稿

此地球上にあるものは、万物の原質を見出し、其原質の相聚して体を成す所以と。物質の互に變化する理を考究するの學問を名け、化學と云ふ。然るに元來化學と云ふ名の原語ハ、西洋の語にあり。東方より轉じて、昔も銅、鉄、鉛、錫の

如き賤劣の金屬を化し。金銀を生ずむ
の術漢名點の術金之術

按子點金術の原名アルキミー或ハアルケミー
と云ふ。是れアラビヤ國の語なり。アル
冠詞キミー又ケミーを祕密の義なり。此
術を講究す。人をアルケミストと稱す。即
ち方士術士の謂なり。此語轉ト。ギリシ
ヤ國。ラテン國ニ入リ。西洋諸國ニ通ル。

但し此點金術ハ漢土ニ。丹砂可化黄金。
あど云リ方士の類ニ。固トリ真ニ
其法有ル。ハあどト。此方の俗説ニ。西洋
人ハ日本の銅を買テ黄金を製ス。あど
云フ。亦是等の誤を傳へル。ならべし。
扱後世アルの二字を去リ。キミー又キ
ケミー。又キミカ。又キミヤ。又キミス
トリーあど稱ス。是ハ昔の如き妄誕の術

あり。即ち方今日、新に月毎に明なる
 化学の原名なり。右の如く称呼の一あり
 ざるハ、洋字 OH にカキケコ、サンスセツの二音
 ある故に。各國呼法同じくさざるの。又ゼ
 ルメン、サイデコンストと云ひ。和蘭にて
 シケイキンデと云ふも。亦化学の别名なり
 ども。是ハ分析術の義にして。其技を以て
 命じたる名なり

然るに明應の頃より。医家専ら此術を学ば
 ず。成り。其故ハ此時代の人。此術に依
 る所謂^{イハユル}靈石を製し出さん事を務むる
 殊に盛に成りなり

靈石と云ふ其妙不思議ある石と云ふ義は
 一々。英吉利語よりハ、ヒロワールス、ストーン
 和蘭よりハ、ステーン、デル、ゼイセンと云ふ。是
 亦想像の^{オモヒヤリ}より名けたる者なり。真に此

物有るよりハ何れも。

灵石を奇妙無双の業利をしる。只賤金を化
しる黄金を生じざるの事あり。能く人身を
强壮し。真火を以て魂魄を入る。万病共
治せむと云ふ事無しと云へり。抑此の如く
得難き物を求めんが為。各國の学士。力
を費す。或二百余年なり。

此時代の説ハ。七金を七曜に配當し。此

内黄金白銀を貴びて。日月に比し。其他の
五金を五星に比す。銅鉄鉛錫ハ。何れも賤
悪の品なれども。術を以て化し。金銀に
變ぜしむべし。水銀ハ頗る貴金に近き者
なり。若し凝結せれば。即ち銀に化すべ
しと思ひ。由なり。而る硫化錫の一種
あり。エニフゴウド。医薬に用る。カロメル等
も。皆此時代の灵石を造り出さんとす。

て。偶然に製し得る者なりと云わ其後
化学沿革の支に付て。面白き話少くも
といへども。紙數に限あるは次巻に續き
て訳出はべし

西洋雜誌卷二

J

1